

2024
27号

学校のトイレ研究誌
最新情報はこちら

学校のトイレ 検索



学校のトイレ 研究誌

トイレが変わる、トイレで変わる



特集

新しい時代の学びを支える
学校トイレのあり方

新しい時代の学びを支える 学校トイレのあり方

現在、公立小中学校施設の約8割が築25年を経過し、老朽化のピークを迎えています。文部科学省の「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について^{※1}」では、子どもたちの多様なニーズに応じた教育環境の向上を目指し、学校施設の長寿命化を図る老朽化対策の一體的整備と、その支援事業が進められています。

それらを受けて、全国の自治体では、学校施設の長寿命化改修や統廃合による建て替えを含む再整備が計画され、学校トイレにおいても、洋式化、乾式化を中心とした整備が着々と進んでいます。公立小中学校の洋式化

は68%（23年9月）まで進みましたが、洋式化がゴールではありません。10〜20年後を見据えた中長期的な将来設計も踏まえて、計画的・効率的にトイレ施設整備を推進するために、どんなことを考えていけばよいのでしょうか？

今号では、学校のトイレ研究会が、学校トイレの現場を見て感じた変化『災害対策と防災機能強化』『インクルーシブな環境整備』『公共施設との複合化・集約化』の3つの視点から、「新しい時代の学びを支える学校トイレのあり方」について考えていきます。

災害対策と防災機能の強化

避難生活と教育活動が共存できる環境

学校施設は、子どもたちの教育の場であるとともに、地域の防災拠点として公共施設の役割を果たすことが求められています。近年、気候変動の影響で気象災害が頻発化していることもあり、現在では、公立小中学校の約95%が避難所に指定されています。避難所としての防災機能整備として、施設の安全性の確保はもちろんのこと、必要な機能の確保、円滑な運営方法の確立、避難生活と教育活動が共存できる環境が必要です。

トイレにおいても同様で、文部科学省の「避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集^{※2}」によると、「必要なトイレの数の確保」と、「断水時もトイレが活用できるようにすること」、「避難者の居住スペースから近い場所に洋式トイレやバリアフリートイレを確保すること」が重要とされています。常設トイレの洋式化やバリアフリー化などをあらかじめ整備しておくことで、マンホールトイレ、簡易トイレ、携帯トイレなど複数の対策を組み合わせた運用がスムーズになります。また、被災後の学校教育活動の早期再開は、復旧復興の第一歩です。避難生活と教育活動の共存においては、避難所として利用できるトイレの場所、数、防犯対策などを計画した配置・動線計画が重要となります。例えば、避難エリアと教室の間を管理シャッターで区切って、校舎内のバリアフリートイレを避難所として開放できるようにするなど、平時と緊急時の両面からトイレ計画を考えておくことも有効です。



災害時に備えて敷地内に整備されたマンホールトイレ。（豊中市立庄内さくら学園）

令和6年1月1日、石川県能登地方でマグニチュード7.6の地震が発生し、死者260人、負傷者1,316人、住家被害12万5,736棟(2024年6月4日時点)と甚大な被害をもたらしました。交通網は寸断され、水道・電気などのインフラが停止、多くの人が真冬の寒いで避難生活を余儀なくされました。1次避難所の避難者数が発災直後の1月2日に4万人を超えたため、過密で劣悪な環境を早期に解消し、体調悪化による災害関連死を未然に防ぐ目的で、1月8日から、1.5次避難所の開設が各地で始まり、1.5次避難所とは、1次避難所から、ホテルや福祉施設などの2次避難所への入居までの間、被災者の生活環境を確保するために、生活や介護の環境が整った地域で、配慮が必要な方を優先して一時的に受け入れを行う施設です。

学校のトイレ研究会では、学校に限らず公共施設における避難所トイレのあり方を考えるため、被災地でありながら他市町の被災者を受け入れられている石川県内の1.5次避難所を3月に訪問しました。訪問したのは、通常は体育施設として運営されている場所。1月上旬に開設し、輪島市で孤立した集落単位でヘリ等により避難されてきた方が生活されています。ピーク時は入所者が150名程となり、大半が高齢者という状況でした。同じ集落の単身者が多く、プライバシーよりもコミュニティが優先され、それが入所者の心のケアにつながるから、居住スペースとなるアリーナには、閉塞感が少なく周囲の気配を程良く感じられる布で仕切られたシエルトアがぎっしりと並んでいました。

トイレについては、開設と同時に仮設トイレを設置、あわせて簡易トイレや携帯トイレの備蓄も用意されましたが、水や電気が問題なく使えたことから、常設の洋式便器やバリアフリートイレが元々整備されていたことから、災害用トイレに頼らず常設トイレでほぼ運用が可能だったとのこと。ただ、災害時の利用や多くの高齢者の受け入れを想定して作られたものではなかったため、運営を重ねる中で以下のようなご苦勞もあつたそうです。

- 高齢者が多いので、移動に時間がかかる。トイレまで距離がある間に合わず失禁につながることもある。居住スペースとトイレは近くにあった方がよい。
- トイレの入り口に手すりがなく、スリッパの履き替えに苦労していた。安全のため、後付けで手すりを設置した。
- トイレの洋式化改修が済んでいたのがよかった。高齢者は和式便器を使えない人が多いので、和式便器だったら大変だったと思う。

令和6年 能登半島地震 1.5次避難所を 視察して



・金沢市額谷ふれあい体育館 (令和6年3月16日視察) ・白山市松任総合運動公園 (令和6年3月14日視察)

- 感染対策としては自動水栓がよい。一方、高齢者には認識しやすく操作に慣れたものが好まれる。(歯磨きの時に水を出しっぱなしにできるなど)
- 冬場だけでなく、感染症が発生した時にお湯が必要。
- トイレには暖房が入らないので寒い。
- 「寒いと夜はトイレに行きたくない、トイレが近くなるから水分を控える」という声がある。

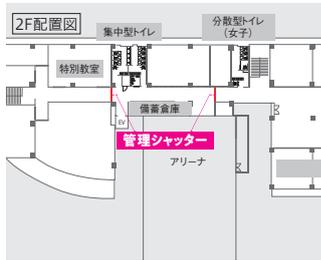
また、避難所内で感染症が発生したことで、予めせめ対応に追われたそうです。感染者を隔離させるため、トイレが複数箇所ある避難所では、施設内をエリア分けして隔離することができましたが、トイレが1か所しかない避難所では、感染者専用のトイレや手洗いを設けることができず、感染者と非感染者で共用せざるを得ない状況が続きました。トイレブースを使い分けるなど運営面での工夫は施したものの、感染対策の基本である「動線を分ける」ことができず、「せめてバリアフリートイレが2か所あれば」という悩みが聞かれました。加えて、運営面では、感染エリアのトイレの清掃や消毒作業の正しい知識をもった担い手が足りず、看護師や保健師の作業負担が非常に大きかったというご苦勞があり、清掃のマニュアル・ガイドを用意するなど、感染対策や清掃に関する知識を共有・教育しておく必要性を学びました。

今回、1.5次避難所を訪問し、インフラや施設設備、運営体制が整った環境で被災者を受け入れることの意義を強く感じました。多くの不安やストレスを抱える被災者にとって、避難先の施設、そして生きていく上で欠かせないトイレの環境が、生活基盤を支えます。高齢者が多く想定される避難所においては、トイレの数の確保とあわせて、配置や距離が重要となること、感染症の発生など有事の際は、トイレが1か所しかないことが運営面で大きなハードルとなるのが浮き彫りとなりました。災害対策と感染症対策はセットで考えること、ハードとソフトの両面からの対策と備えが重要であることを再認識しました。

ご協力いただきました自治体と避難所の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。現地の皆さまの貴重なご意見を、今後の学校や公共施設のトイレ改善活動に役立てながら、1人でも多くの方に伝えていきたいと思ひます。



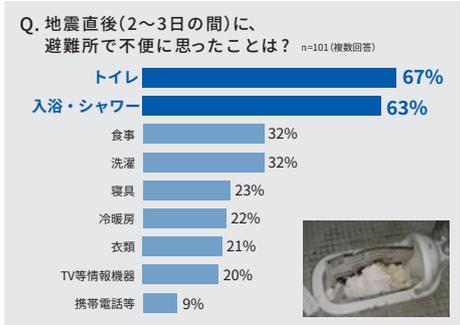
アリーナと校舎の間にあるシャッター設備は災害時や地域開放時に利用。(豊中市立庄内さくら学園)



災害時はシャッターで区画し、校舎棟のトイレを避難所用として開放できる。(金沢市立岸校小学校)

避難生活の長期化と 感染症対策を見据えた計画

学校のトイレ研究会が2016年の熊本地震の避難所で実施した調査では、避難生活が長期化したことも影響し、避難所で一番不便だったことが「トイレ」で、最も困ったことは「和式便器が多いこと」でした。洋式トイレに長蛇の行列ができ、トイレ環境の悪化を理由に排泄を我慢したことによる健康障害も多数報告されました。また、今年の元旦に発生した能登半島地震の避難所では、断水が続いたことで安全な水の利用が困難となり、衛生状態が維持できず、避難所でのトイレ問題が深刻化しました。それに輪をかけて、集団生活による感染リスクが増大し、新型コロナウイルスなど感染症の発生が複数報告されました。衛生環境の悪化は生命に関わる問題となるため、洋式化や乾式化、非接触化など、トイレの衛生環境確保は不可欠です。加えて、長期化する集団での避難生活を想定し、感染症が発生した際にトイレや手洗いの利用動線を分けることができる配置計画など、感染症対策も見据えた防災機能の強化が求められます。



出典:学校のトイレ研究会「熊本地震避難所アンケート調査」(2016年7月)

インクルーシブな環境の整備

急がれる学校施設の バリアフリー化

文部科学省の「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」では、インクルーシブ教育システムを構築する上で、障害、性別、国籍、経済上の理由などにかかわらず、「共に育つ」ことを基本理念とし、物理的・心理的な障壁を取り除くバリアフリー化を進め、ユニバーサルデザインの考え方を目指すことが必要とされています。

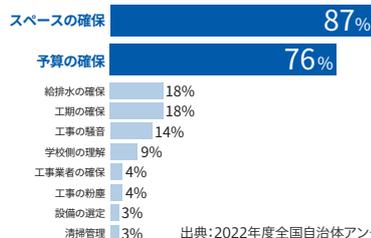
現在、避難所に指定されている全ての公立小中学校施設に対して、エレベーターやスロープの設置とあわせて、校舎と屋内運動場へのバリアフリートイレの整備目標が掲げられています(2025年度末まで)。緊急かつ集中的な整備が求められているものの、2022年度時点で校舎65.2%、屋内運動場37.3%で、都道府県や市町村別に見ると、整備の進捗に差があり、さらなる加速が必要な状況です。学校のトイレ研究会が実施した全国自治体アンケート調査でも、「バリアフリートイレの整備目標が



さまざまな要配慮者の利用を想定して、広さや設備の異なるトイレを各階に分散して配置。廊下からアプローチしやすい場所に設けられている。(藤沢市立小糸小学校)



Q. 校舎の車いす使用者用トイレの設置において課題となることは？ n=101(複数回答)



出典:2022年度全国自治体アンケート調査

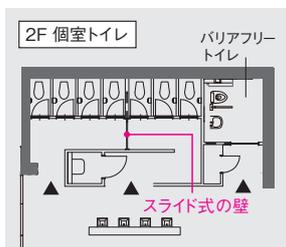
ある」と回答した自治体は半数程度に留まり、設置においては「スペースの確保」と「予算の確保」が大きな課題となっていることが明らかになりました。新しい時代の教育環境を整備する上で、支援が必要な児童・生徒への対応と、災害拠点や地域のコミュニティ拠点としての役割を鑑みて、学校トイレのバリアフリー化の早期実現が望まれています。

児童・生徒たちの多様なニーズ

少子化により学齢期の児童生徒が減少する中、特別支援学校や特別支援学級、通級による指導を受ける発達障がいを含む障がいのある児童生徒は年々増加しています。そのような状況の変化を踏まえ、文部科学省の「これからの特別支援教育を支える学校施設の在り方について」によると、連続性のある多様な学びの場の充実・整備を進めるために、「排泄指導にも対応できる広さのバリアフリートイレやシャワールーム、手洗い場等を、特別支援学級や通級による指導のための教室に近接した位置に計画すること」、「バリアフリートイレは利用目的に応じて、各階・各棟に必要な数を計画すること」が重要とされています。改修ではスペースの制約が伴うことも考えられますが、場所に応じて可能な範囲での広さや設備を備えたトイレを建物内に分散配置することも一つの考えではないでしょうか。



個室仕様のトイレを配置。センターのスライド式の壁を開放すれば性別に関係なく使用できるトイレにもなる将来の変化に対応した設計。(嘉麻市立稲葉東義務教育学校)





統合化された教育施設と地域のコミュニティ拠点となる行政施設が同じ敷地に併設。
(豊中市立庄内さくら学園・庄内コラボセンター)

公共施設との複合化・集約化 学校と地域はパートナー 地域のコミュニティ拠点としての共創空間

小中学校における学校数および児童・生徒数は減少傾向にあり、適正規模を確保するための統廃合が進んでいます。また、学校は地域コミュニティ形成の核となる多様な役割を担っており、学校と地域はパートナーとし

また、性同一性に不安や悩みを抱える児童・生徒への対応として、教職員用トイレやバリアフリートイレの利用を認める運用が進められています。子どもたちの心身の成長過程に応じて、行きやすい場所でもわりを気にせず安心して自由にトイレを選べるよう、男女別トイレとあわせて、バリアフリートイレや男女共用個室トイレを、教室の近くや、教室から離れた場所など、建物内に分散配置する事例も出始めています。

さまざまな特性をもつ子ども達が存在する中、多様性と包摂性(D&I)を高めることが重要で、施設もトイレも柔軟な対応が求められます。障がいのある子ども自立と社会参加を見据え、障がいの有無に限らず、すべての利用者にとって安全・安心で快適な施設環境をつくり、多様なニーズに応えるためには、〇〇専用と決めつけるのではなく、選択肢を用意することが望ましいと言えます。



特別支援教室の近くに2か所設置された性別を問わず利用できる個室のトイレ。
(豊中市立庄内さくら学園)

て連携・協働し、「共創空間」を生み出していくことが重要とされています。

これらの変化を受けて、近年は、地域の活性化・課題解決等の観点から、地域の人口づくりや、魅力向上のための基盤となる学校施設を核とした公共施設との複合化、施設・設備の共用化・集約化が進められています。^{※1}

教育施設としては、9年間を見通した系統性・連続性のある教育活動を効果的に実施できる施設環境の構築、そして地域のコミュニティ拠点としては、不特定多数の利用を想定した、より一層の多様な特性やニーズに対応できる計画と機能が求められることでしょう。

多様化する利用者と向き合い 施設全体でトイレ計画を

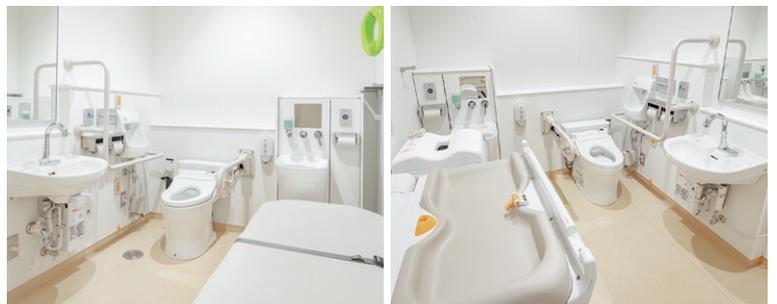
学校と地域の連携・協働の先にある「共創空間」においては、児童・生徒の動線と地域住民の動線の整理による明瞭なゾーニング、地域住民が入りやすい死角をつくらない空間配置、防犯対策など、設計上の工夫が必要とされています。^{※2}

トイレにおいても、その動線計画と連動して個数や機能を適切に分散配置しておくことが有効であり、こうした空間づくりは、学校を核とした地域の活性化や、災害に強い地域づくりにもつながることが期待されます。

公共施設との複合化や学校の集約化によって、学校トイレを取り巻く利用者の特性やニーズは今後ますます増えるでしょう。現時点では必要なくても、今後、いつ誰がどのような支援を必要になるかわかりません。例えば、広いバリアフリートイレと、ちょっと広めのトイレといった「広さ違い」や、大型ベッド、オストメイト配慮設備、ベビシートなどを分散配置した「機能違い」、体格差や年齢差に配慮した「高さ違い」など、必要となった時に施設のどこかに使えるトイレがあることが、要配慮者にとっての安心・安全につながります。1か所のトイレでこれらを網羅させることは不可能です。施設全体で考えることが望ましいといえます。学校のトイレも、そういった考え方へシフトしていく時代になってきていると考えます。



学年によって異なる高さの手洗いコーナー。(豊中市立庄内さくら学園)



地域のコミュニティ拠点として、さまざまな利用者を想定して施設内に機能を分散されたトイレ。(豊中市立庄内コラボセンター)

引用
 ※1：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」
https://www.mext.go.jp/content/20220328-mxt_sisetuki-000021509_2.pdf
 ※2：文部科学省「避難所となる学校施設の防災機能に関する事例集」
https://www.mext.go.jp/content/20200331-mxt_bousai-000005480_02.pdf
 ※3：文部科学省「これからの特別支援教育を支える学校施設の在り方について」
https://www.mext.go.jp/content/20230530-mxt_sisetuki-000021528_2.pdf



キレイなトイレに蘇る クリーニング工法

日常生活に不可欠なトイレ。弊社は「使う人の身になったとき、何を提供できるか」を、考え方の原点としております。トイレを蘇らせる特殊清掃に加え、施工後の実技研修を通して、トイレをキレイに維持するメンテナンスアドバイス等も行っております。さまざまな制約の中でも、学校のトイレを変えたいというニーズを実現するクリーニング工法です。



学校トイレの洋式化に 最適なトイレブース

学校向けトイレブース「ウェイレット」は、ドアが円周上をスライドするので、和式トイレと同じスペースで洋式化が可能な省スペース設計。内引きで、ドアをよけることなく開閉でき、出入りもスムーズ。車いす対応タイプも品揃え。バリアフリー化にも対応、感染症対策・避難所対策としての学校トイレ洋式化改修に最適です。



清潔、快適なトイレ創りに 最適な壁装材

学校トイレの壁面仕上げ材の定番「セーラル」。多彩な色柄に加え、硬く、強く、お手入れも簡単。きれいなトイレ空間を長く保つことができます。さらに、抗ウイルス・抗菌・消臭性能を持つセーラルウイルテクトPlusは清潔感と快適性の維持のお役に立ちます。既存のタイル下地を活用する「セーラルONタイル工法」は20年以上の実績。改修工事の工期短縮、廃材や騒音などの環境負荷も低減します。

さわやかなトイレ環境を創造する 株式会社 木村徳太郎商店

株式会社木村徳太郎商店

〒112-0004 東京都文京区後楽2-5-1
TEL.03-3811-2919
<http://www.toku-kimura.co.jp/>

人を想い、場を創る。 OKAMURA

株式会社オカムラ
ワークプレイス製品部建材製品チーム

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1
ニューオータニガーデンコート24F
TEL.03-5501-3396
<https://www.okamura.co.jp/>

AICA

アイカ工業株式会社
営業企画部

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6
住友商事錦町ビル4F
TEL.03-5282-1050
https://www.aica.co.jp

サイトリニューアル 公開!



<https://www.school-toilet.jp/>

研究誌に掲載していない情報も発信
しておりますので、ぜひご覧ください。

子どもたちが大人になるころには、今ある職業の半分がAIに取って代わられ、まっています。

学校トイレには、依然として和式トイレが多く残っており、衛生面など多くの課題を抱えています。一方で、学校は災害時の避難拠点としての役割を担っていますので、学校トイレには、お年寄りや障がいのある方、乳幼児連れ、性的マイノリティの方も安心安全に利用できる配慮が必要となります。感染症対策として手を触れずに水が出る自動水栓の要望も増えており、トイレでの密を避けるための混雑回避の動線設計や十分な換気計画も重要です。また、家庭での温水洗浄便座普及率が80%を超え、当たり前の住宅設備になったことから、学校トイレへの設置要望も高まっています。

このたび、学校のトイレ研究会会長を拝命しました豊貞です。学生時代から給排水衛生設備を専攻し、これまで一貫してトイレ等の衛生器具に関する実務や教育・研究に従事してまいりました。

学校のトイレ研究会 新会長からのごあいさつ



学校のトイレ研究会会長
福岡女子大学
国際文理学部環境科学科教授
豊貞 佳奈子
とよだか かなこ

その分、新たな職業が生まれるとも言われており、教育現場においても、新しい時代の学びを実現する施設づくりが求められています。先行き不透明で変化の激しい時代を生きていく子どもたちの憩いの場、コミュニケーションの場となり、新しい発想を得られるような、遊び心のある楽しいトイレが求められるかもしれません。

1996年の研究会設立からの研究成果や知見を活用し、今後の学校トイレの環境改善や新しい時代の学校トイレ提案に繋がる活動を推進していきたいと思っております。

今後とも皆様方のお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

プロフィール

1994年日本女子大学家政学部住居学科卒業。同年東陶機器(現・OTO)株式会社入社。同社在籍中に、東京学院大学、明治大学、早稲田大学の客員研究員や慶義塾大学SFC研究所上席所員等を兼任。同社ESG推進部環境研究グループリーダー、研究担当部長を経て、2015年に福岡女子大学に着任。同同学長補佐、女性リーダーシップセンター長。北九州市環境影響評価審査委員会、福岡市環境影響評価審査委員会、古賀市総合政策検証会議副委員長等を務める。



乾式トイレに最適なビニル床シート 「サニタリウム アルファ」

厚く均一なコーティング層が、優れた超防汚性や耐尿汚染性に加え、抗ウイルス性も付与。尿による汚れやシミ、トイレ用洗浄剤からの変色を防ぎます。また、ワックスなしでも汚れがつきにくく、汚れが付着しても落としやすいビニル床シートです。デザインも抽象柄をはじめ、繊維調、木目柄など豊富な柄をご用意いたしました。「サニタリウム アルファ」は、乾式清掃を行うトイレに最適な超防汚抗ウイルス性ノーワックスビニル床シートです。



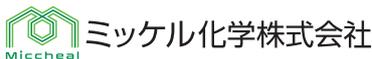
ロンシール工業株式会社

〒130-0021 東京都墨田区緑4-20-7
アステ21 6F
TEL.03-5600-1803
<https://www.lonseal.co.jp/>



健康と持続可能な社会を考えた エコマーク認定手洗い石けん液

感染症や食中毒は、不十分な手洗いによって広がります。トイレの後や食事の前に、「液体の手洗い石けん」を使った正しい手洗いを習慣づけることはとても大切です。資源を無駄にしないため、原料にリサイクル食用油を使い、資源や廃棄される食用油を削減し、持続可能な社会づくりと健康を守るためになくならない手洗い用液体石けんとして「再生油をつかったエコ・ハンドソープ」をおすすめいたします。



ミッケル化学株式会社

〒135-0014 東京都江東区石島2-14
Imas Riverside 4F-A
TEL.03-5633-2520
<https://miccheal.co.jp/>



連続洗浄可能なトイレが 一般的な15A給水管で実現

タンク式と同じ給水口径15Aでフラッシュバルブ式と同等の連続洗浄が可能な新洗浄システム「フラッシュタンク式」は、約20秒で次の洗浄ができるので、休み時間の混雑緩和につながります。フチがない形状でトイレ掃除がラクになります。便座は電源不要な発電式エコリモコンタイプの温水洗浄便座がおすすめ。便座があたたかく、流水音による消音効果でプライバシーを守りながら水のムダ使いをカット、「きれい除菌水」の力できれいなが長持ちするので、快適・衛生的にトイレを使えます。

あしたを、ちがう「まいにち」に。



TOTO株式会社
プレゼンテーション企画グループ

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-5
JR南新宿ビル 6F
TEL.03-5309-2007
学校・トイレに関する情報カタログはこちら
<https://www.com-et.com/>

学校のトイレ研究会とは

学校のトイレ研究会は、児童・生徒が安心して使える清潔で快適なトイレを提案・普及していくことを目的に、トイレ関連企業が結集して1996年に発足しました。以来、各社の知見やノウハウを生かしながら、調査・研究・啓発活動を重ねています。



編集後記

研究誌27号をお読みいただきありがとうございました。かねてより学校施設の老朽化が課題となっていますが、その対策の一つとして、またインクルーシブの観点からも学校のトイレ整備が進められています。今号でもトイレ改修を計画的に推進する自治体を取材させていただきました。子どもたちが「安心してトイレに行ける」という当たり前のことが、すべての学校で一日でも早く叶えられるよう願うばかりです。また、近年自然災害が多く発生していますが、学校が避難所となった際には、さまざまな方が学校のトイレを利用することになります。いつ起こるかかわからない災害に備え、子どもたちと地域の方々の安全・安心のためにも、洋式化・バリアフリー化をはじめとした学校トイレの整備がより一層加速することが望まれます。この研究誌が、トイレを含めた学校施設の環境向上に少しでもお役に立てれば幸いです。最後に、取材ならびにアンケートにご協力くださったみなさまに心より深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

学校のトイレ研究会
中島 薫

学校のトイレ研究誌 27号

編集・発行：学校のトイレ研究会
アイカ工業株式会社、株式会社オカムラ、株式会社木村徳太郎商店、TOTO株式会社、ミッケル化学株式会社、ロンシール工業株式会社

編集委員：アイカ工業株式会社 金川元勇 上田哲哉 園野智史 富田栄一
株式会社オカムラ 加藤真也 阪本晴一 井上豊
株式会社木村徳太郎商店 木村基治 山本隼矢
TOTO株式会社 富岡千花子 河村浩 中島薫
ミッケル化学株式会社 中西真人 大久保真喜 江川周平 李若瑄
ロンシール工業株式会社 川上浩昭 細谷地政人

編集協力：イシイ株式会社
印刷・製本：真生印刷株式会社
表紙写真：高浜町立高浜中学校
(表紙面掲載)
豊中市立庄内さくら学園
(裏表紙面掲載)

「学校のトイレ研究会」Web

学校のトイレ研究会(会員企業6社)は、この度、15年ぶりにWebサイトを全面リニューアルいたしました。研究会の活動内容や現場事例、調査レポート、清掃動画など数多くのコンテンツを掲載。必要な情報を探しやすい、スマートフォンやタブレットでも場所・時間を問わず閲覧・共有できる構造・デザインへ一新しました。過去の研究誌もライブラリーから無料で閲覧・取り寄せが可能です。今後も、より良い学校トイレ環境づくりを目指して、調査・研究活動を重ね、デジタル情報をタイムリーに発信します。ぜひご活用ください。

現場事例

全国
約80現場



調査レポート

自治体・学校
アンケート
結果



「学校のトイレ研究会」
Webサイトは
こちらから
ご確認ください。



これから

2023

最新 全国自治体 アンケート 調査報告

バリアフリー化の 早期実現に向けて

Q5 2025年度末までの目標として、避難所に指定されているすべての学校の校舎と屋内運動場に、バリアフリートイレを整備することが文部科学省より掲げられています。しかしながら校舎への「設置計画あり」が49%、屋内運動場は38%と低く、目標達成は難しい状況となっています。

バリアフリー工事については国庫補助の算定割合が引き上げられたほか、バリアフリー指針の改定や取り組みの事例紹介等、さまざまな対応がなされています。子どもたちや地域の方々が安心して利用できるよう早期実現に向けた計画が期待されます。

多様な子どもたちが 安心できる空間に

Q6 バリアフリートイレ(男女共用)の設置場所について、「校舎の1フロアのみ」が45%、「校舎の各階に設置」が18%、「体育館に設置」が26%と、複数箇所への設置はまだ少ないという結果となりました。

Q7 性的マイノリティや異性の支援が必要な児童への対応として、男女共用トイレは「必要」「どちらかという必要」が63%となっています。男女共用トイレの整備によって、子どもたちが安心できる空間が増え、快適な学校生活を送ることが望まれています。

WEB掲載中! アンケート項目

Q.8 「トイレの壁材・ブース材の仕様」について重視されることは?(新築・改修時)

Q.9 「トイレの床材の仕様」について重視されることは?(新築・改修時)

Q.10 学校施設の省エネ・ZEB化の取り組みにあたり、重要と思われることは?

学校のトイレ アンケート 詳細情報はこちら

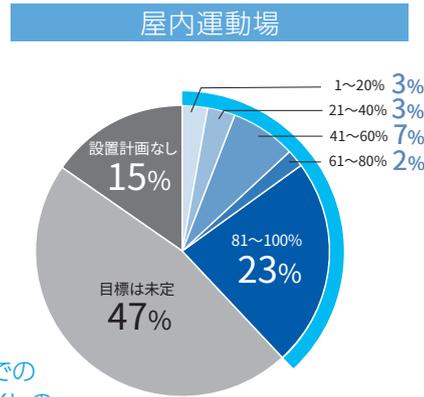
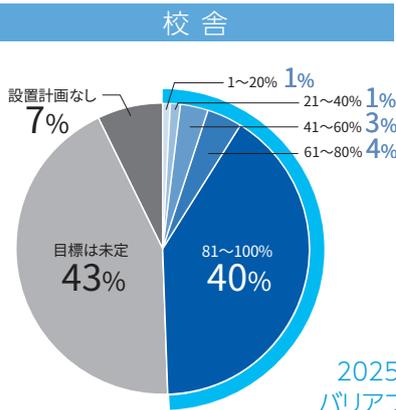


学校のトイレ研究会 調査レポート

検索

Q5 バリアフリートイレの整備目標は?

(2025年度末まで)
*出典:2023年度全国自治体アンケート調査(n=99)



2025年度までの バリアフリートイレの 整備目標あり

校舎

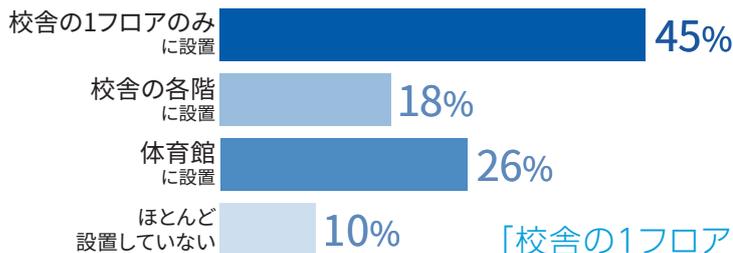
屋内運動場

5割

4割

Q6 バリアフリートイレ(男女共用)は主にどこに設置?

*出典:2023年度全国自治体アンケート調査(n=99)



「校舎の1フロアのみ」

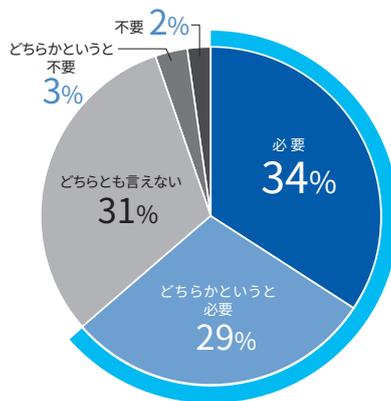
約半数

Q7 性的マイノリティや 異性の支援が必要な 児童への対応として、 男女共用トイレは学校に必要?

出典:2022・2023年度自治体アンケート調査 (2022年度n=102) (2023年度n=99)

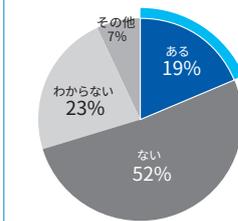
「必要」 「どちらかという必要」

63%



(参考)2022年 自治体アンケート

Q 性的マイノリティの児童・生徒への対応も視野に入れて、男女共用トイレの整備を行う予定や行ったことは?

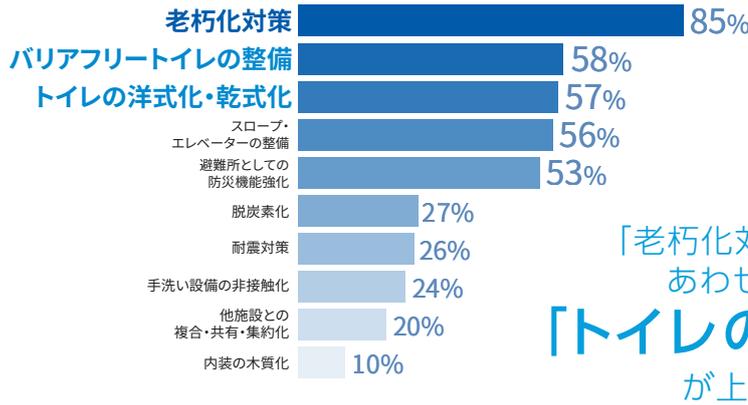


調査概要

*各グラフの数値は小数点以下四捨五入。合計しても必ずしも100とならない。*nはいずれも有効回答数 *調査方法は郵送またはFAX ■ 2023年度全国自治体アンケート調査 調査対象:全国1,787自治体 調査時期:2023年9月~11月 回答数:99(回答率5.5%) ■ 2022年度全国自治体アンケート調査 調査対象:全国1,787自治体 調査時期:2022年8月~10月 回答数:103(回答率5.8%)

Q1 新しい時代の学びを支える安全・安心な教育環境の実現のために「今後改善が必要」と思われること

出典:2023年度全国自治体アンケート調査 (n=98/複数回答)



新しい時代の学びを支える学校トイレのこ

今回の調査では、学校トイレのこれからのスタンダードを探るために、新築・改修時の整備方針について伺いました。

新築・改修時における乾式化・洋式化

Q1 「老朽化対策」が85%と最も高い結果となりました。続いて、「バリアフリートイレの整備」「トイレの洋式化・乾式化」「スロープ・エレベーターの整備」「避難所としての防災機能強化」が半数を上回り、災害対策やインクルーシブ教育にも配慮したバリアフリー対策が重要視されていることがわかります。

Q2 新築または改修時のトイレの床の方針として、「すべて乾式床」「乾式床が多い」とする回答が87%を占め、「すべて湿式床」は0%となっています。乾式化による衛生管理や維持のメリットについて、認知されていると考えられます。

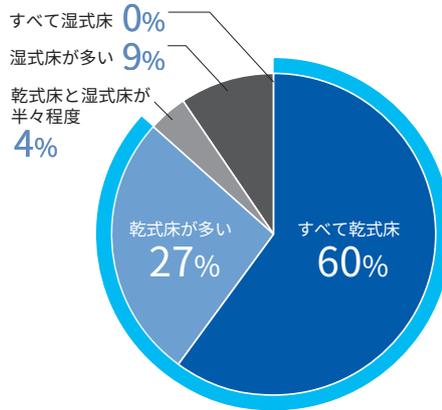
Q3 児童・生徒用トイレの洋式化については、「すべて洋式化」「おおむね洋式化」が90%を超えています。感染症対策の観点からも洋式化への方針転換は確実に進み、「和式を1か所残す」方針は1割未満となりました。

Q4 温水洗浄便座設置の方針では、児童・生徒用で「すべてに設置」「設置が多い」が児童・生徒用で34%、職員用で59%、支援や介助を必要とする利用が多いバリアフリートイレは79%と、教職員用やバリアフリートイレに比べて、児童・生徒用が非常に低い結果となりました。

Q2 「トイレの床」の方針は？ (新築・改修時)

出典:2023年度全国自治体アンケート調査 (n=98)

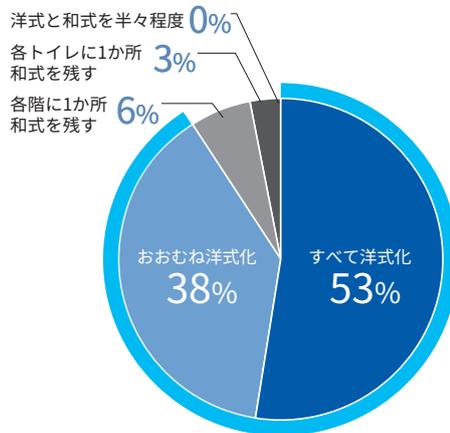
「すべて乾式床」
「乾式床が多い」
87%



Q3 「児童・生徒用トイレの洋式化」の方針は？ (新築・改修時)

出典:2023年度全国自治体アンケート調査 (n=99)

「すべて洋式化」
「おおむね洋式化」
91%

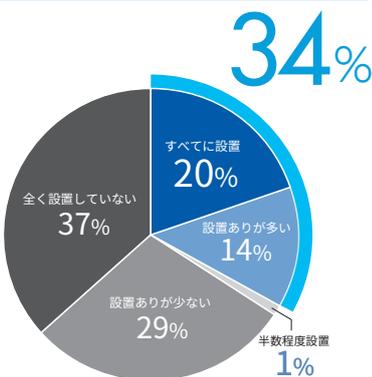


Q4 「トイレの温水洗浄便座設置」の方針は？ (新築・改修時)

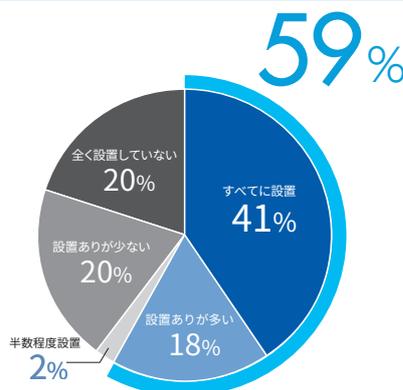
*出典:2023年度全国自治体アンケート調査 (n=96)

児童・生徒用トイレの温水洗浄便座 「すべてに設置」「設置が多い」 **約3割**

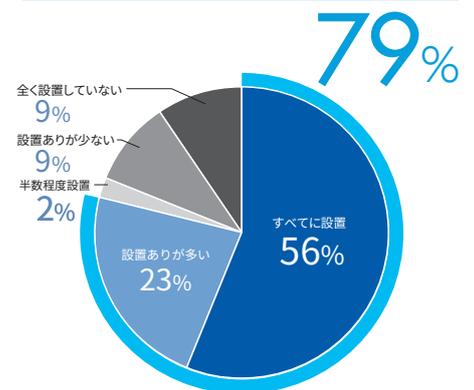
児童・生徒用トイレ



教職員トイレ



バリアフリートイレ





トイレ入り口
明るく開放的になった生徒用トイレの入り口。



女子大便器ブース
エッググリーンをベースカラーとしたさわやかな雰囲気の子供用トイレ内。



大便器ブース内
洋式化とあわせて温水洗浄便座が標準装備された。



男女トイレの洗面コーナー
非接触の自動水栓に切り替え、照明はLEDに変更され、明るく清潔になった。

学校のトイレ 事例

詳細情報はこちら

学校のトイレ 事例 検索



時代に合ったトイレで 教育環境を支える

今回の改修工事によってきれいになったトイレに対して、生徒たちからは、「ずっと入ってみたいくらいきれい！嬉しい！」「床をサッと拭くだけで掃除が楽になった！」など、喜びの声が聞こえてきました。

校舎は1999年に建てられたもので、トイレは和式便器の設置が主流でした。それから20数年、照明も暗く、トイレ特有の嫌なニオイも発生していました。高浜町建設整備課の西嶋悠佑さんは、「時代に合った施設とするため、校舎の1階から3階にある男女トイレ、武道館横にある男女トイレの改修を優先して行うことになりました」と教えてくれました。

タイル貼りの湿式床を乾式化して、床に用いる防汚性ビニルシートは、病院などでも採用されている巻き上げ施工により巾木をなくし、清掃しやすくしています。また、改修前は洋式便器の数が少なく、休み時には洋式トイレに行列ができることもあり、勉強に集中できない環境だったそうです。そこで改修では、洋式便器を増やして温水洗浄便座を標準装備に。また感染症対策として小便器の自動洗浄や洗面の自動水栓を採用し、照明は明るいLEDに替えました。

トイレの内装は、多様性への配慮として、男子トイレは白、女子トイレはエッググリーンをベースカラーとしたさわやかな空間に仕上げています。教職員用と武道館のトイレも同様に、リフレッシュ工事を実施しました。

子どもたちが安心して学べる 工事計画

改修工事の主な目的は、タイルの湿式床の乾式化でしたが、子どもたちが通常通りに登校する中で実施する工事となったので、土日や祝日、夏休みなどを利用して行われました。

「以前の学校のトイレといえば、暗く閉鎖的で、嫌なニオイがする場所というイメージがありました。今回の改修工事によって、明るく衛生的で、ニオイも気にならない。そして何より、開放感があります」と、時岡常和校長先生は嬉しそうに語ってくれました。

トイレが明るく開放的な環境に変わったことで、子どもたちの気持ちも大きく変わります。しかしながら、トイレに限らず学校に工事が入ることで、子どもたちへの教育活動が妨げられることがあってはなりません。子どもたちが落ち着いて、安心して学べる環境を最優先に考えた工事計画が必要です。



武道館のトイレ
外に面した通用口からも利用できる。



武道館のトイレに設置された温水洗浄便座と発電タイプの電波式リモコン。



2階男子トイレ
壁掛自動小便器と汚垂れ石を設置し、
清掃性を高めた。

事例

03

改修

福井県大飯郡高浜町

高浜町立高浜中学校

安心して学べる環境を最優先に

町全体の活性化の一翼を担う子どもたち

福井県の西、京都府との県境に近い高浜町。青葉山(若狭富士)の裾野から伸びる海岸線は、ほぼ海水浴場エリアとなっており、その中でも若狭和田ビーチは、2016年以来8年連続でブルーフラッグ認証を受ける素晴らしい海岸です。そんな美しい海と山に囲まれた豊かな自然の中で、子どもたちは元気いっぱい、伸び伸びと生活しています。

高浜町教育委員会事務局の寺坂仁志さんは、「高浜町は子育て支援と教育環境日本一を目指して、さまざまな施策や環境整備を進めています。行政と町民が一体となり、町全体を盛り上げていくことに熱心な地域だと思えます。新たな地場産業の創出も施策の一つで、子どもたちも町づくりに精力的に関わってくれています」

高浜中学校の時岡常和校長先生は、「生徒たちは、“高浜未来創造プラン”という企画

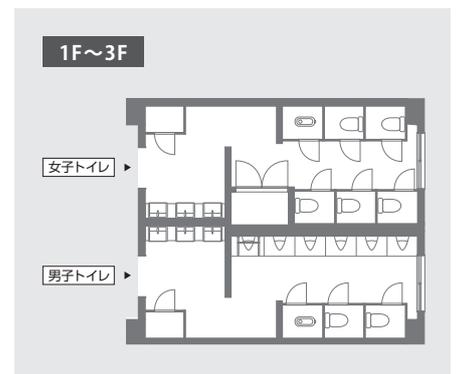
提案型の探究学習を行っています。

例えば、高浜町をPRする動画を作成したり、あるいはキャリア教育の一環で商品開発を行ったり。地域で栽培をしている薬草を使った商品を開発して販売もしています」と言います。町民が一体となって地域の活性化に向けて、さまざまな取り組みを行なっている様子が伝わってきます。



校舎外観

高浜中学校校舎を正門から見たところ。子生川(こびがわ)を挟んで斜め向かい側には高浜小学校があり、トイレの改修工事は小学校の方が先に行われた。



名称:高浜町立高浜中学校/所在地:福井県大飯郡高浜町宮崎 70-15/生徒数:237名(2024年4月)/施主:高浜町/設計・監理:有限会社 カワベコーポレーション/施工有限会社 平田木材店/竣工年月:2024年3月



1階の男子トイレ(写真左)と女子トイレ(写真右)
洗面コーナーのモザイクタイル。明るくカラフルなカラーを基調とした可愛いデザイン

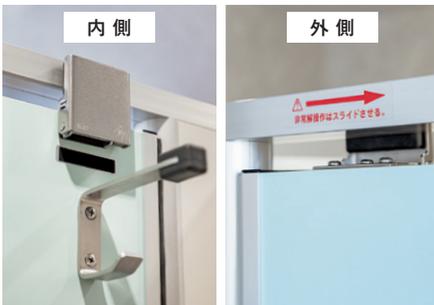


黄色のスクエア型洗面ボウル。トイレ内がより明るく感じられる。水栓はセンサー式の自動水栓が設置されている。

学校のトイレ 事例

詳細情報はこちら

学校のトイレ 事例 検索



ブース内で人が転倒した場合など、非常時には扉を外開きに変更できる仕様。



上) 2階 下) 3・4階 広めの個室トイレ
さまざまな利用者を想定して、男女それぞれに広めの個室が設置されている。

男子トイレ

床は湿式から乾式に変更。防汚性ビニルシートを採用した。汚れが集中する小便器の周りには、汚れをつきにくくする汚垂れ石を採用。



学校施設整備の方針と取り組み

藤沢市では昭和50年代の人口急増期に、多くの学校が設置された状況があり、築後40～50年ほど経過した学校施設の適切な維持・管理を行うことが課題になっています。藤沢市教育委員会・学校施設課の木下尊人さんは、「施設の再整備計画については、どの自治体も同じような課題を抱えているのではないのでしょうか。建物の状態によっては建て替えも検討しますが、基本的には段階的な改修を行いながら建て替えと同等の教育環境を確保することを目指しています」と語ってくれました。

実施計画は、既存施設の適正な管理・運営に関わる整備について直近5年間の計画を立案し、外壁やプールの補修、トイレ、エアコンの設置、グラウンド改修などを計画的に進めるというものです。その中で、築年数を早期改修着手の目安としながら、学校ごとの状況を調査し、学校側の意見を聞くことも大切です。これらを整理・分析したうえで、長寿命化に向けた施設再整備方針を策定し、実施されています。

外部からもアクセスできる「みんなのトイレ」

今回の小糸小学校のトイレ改修工事は、北

校舎の1階から4階までを対象にしています。避難所となることに備え、校舎の1階に外から入れるトイレを設置しました。みんなのトイレもこのフロアにあり、運動会などのイベントや、校庭開放などでの地域住民の利用が想定されています。外からも出入りが可能なため、防犯対策として校舎廊下側の入り口にシャッターを設置し、外部と隔離できる設計になっています。

藤沢市計画建築部・公共建築課(取材時)の奥村梨絵さんは、「学校からの要望は、施設課と共有しています。特にトイレの外部からの動線と防犯対策については、事前に打ち合わせをしたうえで設計しています」と説明してくれました。

「藤沢市としては、いずれ全校に“みんなのトイレ”を設置するという方針で改修計画を進めています。各階への設置を基本とし、改修等でスペースを確保することが難しい場合は男女トイレ1か所ごとに1室は広めの個室トイレを設置することにしています。また、さまざまな利用者を想定して、オストメイトへの対応も同時に行っています。現在、小糸小学校には特別支援学級はありませんが、どのような状況の子どもが入学してきても安心して学校生活を送れるように、事前に必要な配慮を確認して修繕するなど、臨機応変に対応しています」と、木下尊人さんが語ってくれました。



1階みんなのトイレ

みんなのトイレは、女子トイレ側に設置されているが、扉に大きくサインが描かれ、一目で利用対象者がわかるようになっている。





1階女子トイレ内から
扉の向こう側に見えるグラウンドからの動線を作った。
外から入る際は、備え付けのサンダルに履き替える。

事例

02

改修

神奈川県藤沢市

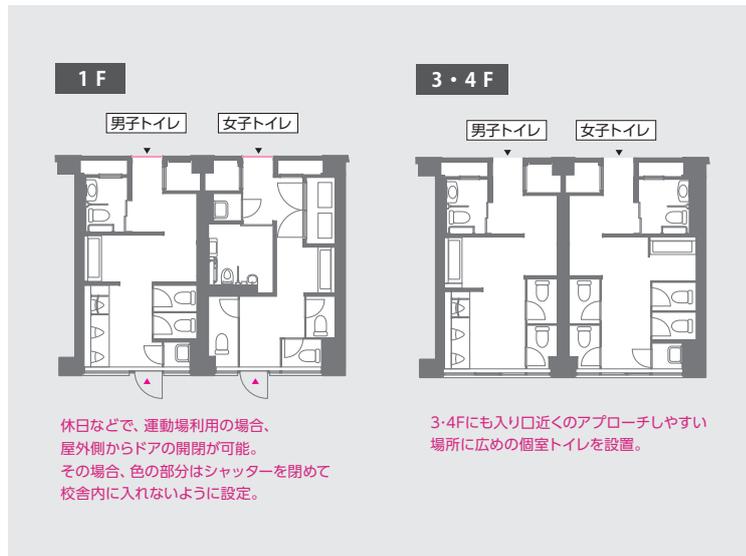
藤沢市立小糸小学校

外部アクセスと防犯対策を両立したトイレ

明るくきれいになった！ 大喜びの子どもたち

「こんにちは！」子どもたちの明るく元気な挨拶が、とても心地よく響く小糸小学校。4年生以上のクラス代表者が中心となる運営委員会では、定期的に生活目標を決めています。「今は『挨拶をする』を目標にしていますが、他にも運動会のスローガンを決めたり、イベントのポスターを作ったり、学校行事に必要なことを全校に呼びかけてくれています」と松川裕子校長先生。

校舎は北校舎と南校舎に分かれており、南校舎のトイレは以前の改修工事で整備を終え、1・2・4・6年生が使用しています。今回新しくなった北校舎の3・5年生の中には改修工事前の暗く汚いトイレが嫌で、わざわざ南校舎のトイレに行く児童もいたそうです。改修工事が終わったトイレは、洗面には明るい色をベースにした三角形のモザイクタイルがあしらわれ、洗面ボウルやトイレベースのカラフルな色がアクセントになっています。床は湿式から乾式に変更されました。すっかり生まれ変わったトイレに、子どもたちは大喜びです。南校舎の子どもたちも見に来ていました。



名称: 藤沢市立小糸小学校 / 所在地: 神奈川県藤沢市大庭 5062-1 / 児童数: 295 名
(2024 年 4 月) / 施工主: 藤沢市 / 設計・監理: 藤沢市 公共建築課 / 施工: [建築] 株式会社丸山工務所 / [設備] 株式会社下田商会 / 竣工年月: 2024 年 3 月



1階低学年用トイレ

円形のスペースに壁掛自動小便器を配置。隣の視線が気になりにくいメリットとトイレにワクワク感を取り入れたデザイン。



マンホールトイレ
庄内コラボセンターと庄内さくら学園(大アリーナ)の間に、マンホールトイレを設置できるエリアを確保。施設が避難所として運用されることを想定している。



2階3・4年生用トイレ/手洗い

手洗いカウンターは低学年用よりも高めに設定。

学校のトイレ 事例

詳細情報はこちら

学校のトイレ 事例

検索



1階男女共用トイレの入り口

発達に課題がある子どもたちが使用する教室の近くには、男女問わず利用できる個室タイプのトイレを設置。



1階バリアフリートイレ

北校舎1階と3階のバリアフリートイレには、オストメイト対応設備の他、大型ベッドも備えられている。



コラボセンター3階トイレ

庄内コラボセンター3階のバリアフリートイレ。このフロアには、主に高齢者の方が利用する施設が入っているため、扉は自動ドアを設置している。

子どもたちの成長と多様性に配慮した設計

子どもたちは、新しい校舎に通うことを楽しみにしていました。トイレは湿式床から乾式床に変更され、衛生性と清掃性が向上しました。また、1年生から9年生までの、各年次の成長段階に応じて設計内容を工夫しています。1～4年生が利用する南校舎1階のトイレは、楽しく、行きたくなるように、曲線形状を用いて柔らかな空間を演出しました。手洗いコーナーはみんなで集まれる場所をイメージして、友達と一緒に手洗いができる安心感を生み出すアイランド形状です。便器や手洗いカウンターの高さは、高学年に比べて低く設定しています。5年生頃からは、より自主性が高まり個性を意識し始める学年になるため、トイレの手洗いは個別に分け、大きな鏡を設置するなど、身だしなみを整えられるよう配慮しました。通級指導教室や適応指導教室などが並ぶエリアには、性の多様性に配慮した男女関係なく利用できる個室タイプのトイレを設けています。また、各階にはバリアフリートイレを整備し、そちらも利用できるように配慮しています。

街づくりの新たなスタンダード

学校と行政施設が併設された南部地域の拠点としての運用は、まだ始まったばかりです。本田光直副校長は言います。「地域との接点が敷地内にあることは、とても恵まれた環境だと思います。授業においても庄内コラボセンター[ショコラ]を使わせてもらう場合もありますし、子どもたちが下校後にショコラに立ち寄るなど、地域の人たちとの交流が生まれており、とても素晴らしいことです」。豊中市市民協働部・地域連携課の久野真優子さんは、「ショコラは、庄内さくら学園の子どもたちはもちろん、高齢者からお子さま連れの方まで、幅広い世代の方々に利用されています。この施設を使って、地域の方々が楽しめる場をもっと作りたいと考えています」と語ってくれました。豊中市南部地域の活気ある街づくりが、新たなスタンダードとして展開していくことが期待されています。



1階低学年用トイレ・手洗い

1階1・2年生用のトイレ。手洗いコーナーは、車いす使用者用を含めて4カ所すべてが自動水栓。友だちとおしゃべりしながら楽しく手洗いできるアイランド型を採用。

事例

01

新築

大阪府豊中市

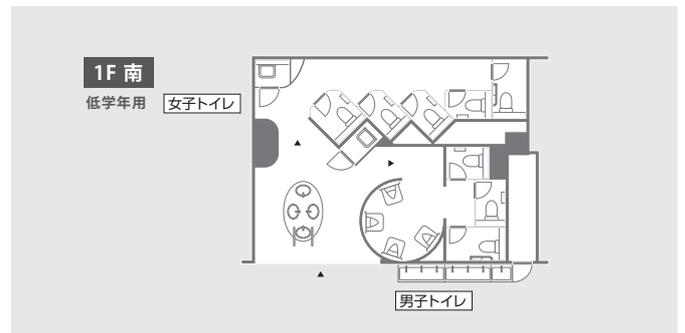
豊中市立庄内さくら学園・庄内コラボセンター[ショコラ]

子どもたちの成長に寄り添ったトイレデザイン

豊中市南部地域の核となる施設を目指して

豊中市南部地域の小・中学校では、児童数・生徒数が減少し、小学校から中学校へ進学する段階で、学区が複数に分かれることにより、さらに小規模化してしまうという課題がありました。そこで、学校同士を統合することで適正な規模を確立しつつ、子どもたちが多様な人々とのコミュニケーションの中で関係性を育んでいける教育環境を整備することになりました。また、公共施設に関しても各所にさまざまな施設が点在しており、その老朽化が課題でした。これらを一つの場所にまとめ、南部地域の核となる施設を目指して、学校と行政施設が併設されたのです。

庄内さくら学園の本田光直副校長は、「本校は小学校と中学校が一つになった義務教育学校ということで、1年生から9年生で構成されています。また、豊中市では本校を皮切りに、今後新たに設置される小中一貫制の義務教育学校においては、学びのステージを“4年-3年-2年”という設定で展開する予定です。例えば、4年生まではクラス担任制、5年生からは教科別に専任教員が指導します。6～7年生に移行するステージでは、単に小学から中学へ進級するという考え方ではなく、7～8年生へのステップを視野に入れ、最終ステージでは進路など将来に向けての指導を行っています」と語ってくれました。



1階低学年用のトイレ。入り口にはアイランド型の手洗いコーナーを設置。手洗いカウンターの高さは、高学年より低く設定されている。男子トイレの円形に配置された小便器や、女子トイレの斜めに配置されたブースなど、トイレ内で楽しく過ごせるように工夫。

名称：豊中市立庄内さくら学園／所在地：大阪府豊中市庄内幸町 4-29-2／児童生徒数：1,111名（2024年4月）

名称：庄内コラボセンター（ショコラ）／所在地：大阪府豊中市庄内幸町 4-29-1
 施主：豊中市／設計・監理：株式会社類設計室／建築：大林組・河崎組特定建設工事共同企業体／設備：（給排水衛生）柳生・山田特定建設工事共同企業体／（電気）九電工・八千代・新日通特定建設工事共同企業体／（空調）伊丹・ササベ特定建設工事共同企業体／竣工年月：2022年11月

トイレが変わる、トイレで変わる

学校のトイレ研究誌



学校のトイレ研究誌
最新情報はこちら

学校のトイレ 検索

学校トイレの最新現場事例

1. 豊中市立庄内さくら学園・
庄内コラボセンター [ショコラ] (大阪府)
2. 藤沢市立小糸小学校 (神奈川県)
3. 高浜町立高浜中学校 (福井県)

最新全国自治体アンケート調査報告 2023



学校のトイレ研究誌 27号
2024年(令和6年)7月12日発行
学校のトイレ研究会 事務局
〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-1-5
JR南新宿ビル 6F
TOTO株式会社内
TEL: 03-5309-2007

YPCR53-461

No.3196